

科目名	建築設計製図Ⅱ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅱ						
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	田川 裕也
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築施工現場事務所にて 施工図作成業務に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	木造2階建て住宅の図面模写 配置図の描き方 平面図の描き方 断面図・立面図の描き方 矩計図の描き方 1階床伏図・2階床伏図・1階小屋伏図の描き方 【住宅のフリープラン】各自で条件にあったフリープランを作成する						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				木造建築の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。	
		○	○			木造2階建て住宅(店舗併用住宅)図面の模写が出来る。	
		○	○			木造2階建て専用住宅の設計製図が出来る。	
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 住まいの建築設計製図						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1・2	鉄筋コンクリート住宅トレースの説明、平面図の作図				課題は次の授業までに終わらせること。	
	3・4	配置図・平面図(2)の作図				課題は次の授業までに終わらせること。	
	5・6	断面図の作図				課題は次の授業までに終わらせること。	
	7・8	立面図の作図、仕上げ、手直し				進捗状況の報告	
	9・10	木造住宅フリープラン 課題説明、敷地の読み取り方、コンセプト設定				課題は次の授業までに終わらせること。	
	11・12	図面作成、エスキース				課題は次の授業までに終わらせること。	
	13・14	図面作成、エスキース				課題は次の授業までに終わらせること。	
	15・16	図面チェック、図面作成				進捗状況の報告	
	17・18	図面チェック、図面作成				進捗状況の報告	
	19・20	図面作成、課題提出				課題は次の授業までに終わらせること。	
	21・22	RC造、課題説明				課題は次の授業までに終わらせること。	
	23・24	図面チェック、図面作成				課題文を熟読する	
	25・26	図面チェック、図面作成				課題文を熟読する	
	27・28	図面チェック、図面作成				課題文を熟読する	
29・30	図面作成、課題提出				課題は次の授業までに終わらせること。		
評価方法	(1)課題の提出 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題	○	○	○			50%
	発表・作品	○	○	○			50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築CAD設計製図演習Ⅱ										
科目名(英)	Computer Aided Architectural DesignⅡ										
単位数	4単位			時間数		60時間		担当者		田邊 聡	
実施年度	2022年度			実施時期		後期		担当者実務経験		建築設計事務所にて BIMモデル作成業務に従事	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年										
授業概要	・ARCHICADの基本的な操作の習得。 ・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 ・設計課題を通してBIMの特性を理解する。										
授業形式	講義:			演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
		○				覚えたコマンドを効果的に活用してモデリングを行うことができる。					
		○		○		モデルから基本図を生成し、図面化を行うことができる。					
		○		○		材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。					
		○		○		レイアウトを使ってプレゼンテーションボードを作成することができる。					
		○		○		自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。					
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 25 Magic Vol. 1及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1・2	BIMの概要、モデル入力「メッシュ、柱、梁、壁」							テキストを見て予習を行うこと		
	3・4	モデル入力「ドア、窓、スラブ、階段、オブジェクト」							前回の復習を行うこと		
	5・6	モデル入力「2階、3階、屋上の作成、カーテンウォール」							前回の復習を行うこと		
	7・8	モデル入力「断面図、立面図、レンダリング、レイアウト」							前回の復習を行うこと		
	9・10	課題1:モデル再入力「1階、2階」							前回の復習を行うこと		
	11・12	課題1:モデル再入力「3階、屋上、レイアウト」							前回の復習を行うこと		
	13・14	環境モデル作成、材質設定、レンダリング設定							前回の復習を行うこと		
	15・16	プレゼンテーションボード作成「データ提出」							前回の復習を行うこと		
	17・18	ツールの応用、特殊ツールの紹介、質疑応答							前回の復習を行うこと		
	19・20	課題2:作成モデルのリノベーション「コンセプト」							情報、資料収集を行うこと		
	21・22	課題2:作成モデルのリノベーション「エスキス①」							情報、資料収集を行うこと		
	23・24	課題2:作成モデルのリノベーション「エスキス②」							情報、資料収集を行うこと		
	25・26	課題2:作成モデルのリノベーション「モデリング①」							タイムスケジュールの確認を行うこと		
	27・28	課題2:作成モデルのリノベーション「モデリング②」							タイムスケジュールの確認を行うこと		
29・30	課題2:作成モデルのリノベーション「プレゼン資料提出」							必要提出資料の確認を行うこと			
	(1)2つの課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・表現力を評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										

科目名	建築設計演習Ⅰ									
科目名(英)	Architectural design draftingⅠ									
単位数	4単位			時間数	60時間		担当者	深野木 隆		
実施年度	2022年度			実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて建築設計(意匠)に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年									
授業概要	建築計画の位置づけと建築計画の意味や方法を学ぶ。									
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○				世界の名住宅のDVDを鑑賞し内容を説明できる				
		○				西洋建築史の流れと内容を説明できる				
		○				日本建築史の流れと内容を説明できる				
		○				住宅の計画ができる				
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1・2	「建築の構え」について								
	3・4	寸法について					住宅に関する資料を集める			
	5・6	「世界の名住宅」のDVD鑑賞①					住宅に関する資料を集める			
	7・8	「世界の名住宅」のDVD鑑賞②					住宅に関する資料を集める			
	9・10	西洋建築史①					西洋建築史に関する資料を見る			
	11・12	西洋建築史②					西洋建築史に関する資料を見る			
	13・14	日本建築史①					日本建築史に関する資料を見る			
	15・16	日本建築史②					日本建築史に関する資料を見る			
	17・18	建築計画の進め方					住宅に関する資料を集める			
	19・20	「住宅団地に立つ集会所」の計画 エスキスチェック①					設計資料を集める			
	21・22	「住宅団地に立つ集会所」の計画 エスキスチェック②					設計資料を集める			
	23・24	住宅計画①					設計資料を集める			
	25・26	住宅計画②					設計資料を集める			
	27・28	住宅計画③					設計資料を集める			
	29・30	プレゼンテーション								
評価方法	(1)課題の提出内容 (2)課題の提出枚数(3)プレゼンテーション ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	課題の提出枚数		○				60%			
	作品の完成度		○				20%			
	プレゼンテーション		○				20%			
履修上の注意	①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合 ②出席回数が授業回数の2/3に満たない場合 ①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない ※参考(提出枚数について): S評価:すべての課題を提出 A評価:提出枚数が全体の9割以上 B評価:提出枚数が全体の8割以上 C評価:提出枚数が全体の7割以上 D評価:提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない ※提出枚数の評価に加え、図面の仕上がり具合により評価は上下します。									

科目名	建築設計製図演習 I						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING						
単位数	2単位		時間数	32時間		担当者	児玉 正樹
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	建築設計に付随するサイン・内装の知識を習得することにより、多様化する建築設計に対応できる力を養う。 また、デザインリテラシーが求められている現在、設計者として設計の考え方・アプローチ、その表現手法・プレゼンテーションをコンペを通して学んでいく。						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				建築的サインの必要性和掲出場所を理解しプランする事ができる。	
		○				内装を理解し簡単なプランニングができる。	
		○	○			サイン・内装のプランニングを適切に平・立面図で表現することができる。	
		○				設計(コンペ)に対しての基本的な考え方のアプローチ・手法を表現する事ができる。	
		○				設計(コンペ)に関するコンセプト・ねらいを表現でき、プレゼンテーションできる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	建築設計に付随するサイン・内装の理解とデザイン					
	2	建築設計に付随するサイン・内装の理解とデザイン					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	3	建築設計に付随するサイン・内装のプランニング					
	4	建築設計に付随するサイン・内装のプランニング					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	5	建築設計に付随するサイン・内装の平面図の作成					
	6	建築設計に付随するサイン・内装の平面図の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	7	設計(コンペ)のアプローチ図・考え方の作成					
	8	設計(コンペ)のアプローチ図・考え方の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	9	設計(コンペ)のプレゼンボードの作成					
	10	設計(コンペ)のプレゼンボードの作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	11	建築設計に付随するサイン・内装の立面図の作成					
	12	建築設計に付随するサイン・内装の立面図の作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	13	サイン・内装デザイン作成した図を元にプレゼン資料作成					
	14	サイン・内装デザイン作成した図を元にプレゼン資料作成					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
	15	作成したプレゼン資料元に、プレゼンテーション					
	16	作成したプレゼン資料元に、プレゼンテーション					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
評価方法	(1)課題の提出 (2)プレゼンテーション 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品		○	○			50%
	プレゼンテーション		○	○			50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築計画Ⅱ						
科目名(英)	Architectural planning and designⅡ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	河嶋 正樹	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	・幼稚園、保育園、小学校、中学校を計画する上での基本的な知識の修得と、代表的な事例の紹介。 ・外部空間の計画上の手法を学ぶ。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				幼稚園、保育園を計画する上で留意すべき事柄を説明出来る	
		○				小学校、中学校を計画する上で留意すべき事柄を説明出来る	
		○				外部空間(都市の通過空間、広場、住宅地の外部空間)の計画手法を説明出来る	
テキスト・教材 参考図書	建築計画(実教出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	3－1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷,幼稚園の計画1					
	2	3－1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷,幼稚園の計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	3－1幼稚園(保育所) 各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	レポート課題①				レポートを提出期限までに提出すること	
	5	3－2小学校・中学校 小学校・中学校の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	3－2小学校・中学校 学校の計画,校舎の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	3－2小学校・中学校 新しい教育形態への対応				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	レポート課題②				レポートを提出期限までに提出すること	
	9	7－1外部空間の把握 建築物と外部空間、外部空間の認識方法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	7－2外部空間の把握 外部空間のスケール				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	レポート課題③				レポートを提出期限までに提出すること	
	12	7－2外部空間の計画手法 都市の通過空間・都市の広場				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	7－2外部空間の計画手法 住宅地の外部空間				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	後期授業総括(1～13回)、レポート課題発表①②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	レポート課題③発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	宿題・レポート	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	構造力学Ⅱ							
科目名(英)	Structural MechanicsⅡ							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	黒木 文雄	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築建築設計事務所にて構造設計を担当、専門学校にて常勤講師として勤務	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年							
授業概要	静定構造物の応力の求め方を学ぶ。							
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				静定梁の応力が求められる。		
	○	○				静定ラーメンの応力が求められる。		
	○	○				静定トラスの応力が求められる。		
テキスト・教材 参考図書	建築構造設計(実教出版)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	持ち出し梁の応力					予習、復習	
	2	片持ち梁の応力					予習、復習	
	3	片持ち梁系ラーメンの応力(1)					予習、復習	
	4	片持ち梁系ラーメンの応力(2)					予習、復習	
	5	単純ラーメンの応力(1)					予習、復習	
	6	単純ラーメンの応力(2)					予習、復習	
	7	単純ラーメンの応力(3)					予習、復習	
	8	3ヒンジラーメンの応力					予習、復習	
	9	トラス構造の特徴と静定トラスの解法について					予習、復習	
	10	静定トラス 切断法(1)					予習、復習	
	11	静定トラス 切断法(2)					予習、復習	
	12	静定トラス 切断法(3)					予習、復習	
	13	静定トラス 節点法・算式					予習、復習	
	14	静定トラス 節点法・図式					予習、復習	
	15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○		◎				80%
	小テスト	○		○				10%
	宿題・レポート	○		○				10%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、単位を与えない							

科目名	建築構造Ⅰ											
科目名(英)	Introduction of Building ConstructionⅠ											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		高野 繁幸			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事			
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年											
授業概要	木構造に関する一般構造と構造設計を学ぶ											
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				木材と木質材料について説明することが出来る。						
	○	○				木材の接合(仕口、継手)の名称と特徴について説明することが出来る。						
	○	○				木材の接合(釘、ボルト、金物)の名前と特徴について説明することが出来る。						
	○	○				壁倍率と壁量の算出をすることが出来る。						
	○	○				木造の各部の構造について説明することが出来る。						
テキスト・教材 参考図書	建築構造(実教出版)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	木構造の特徴と構造形式					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	2	木材料(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	木材料(2)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4	木材の接合(1) ぼぞ、継ぎ手、仕口					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5	木材の接合(2) 接合金物					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	6	基礎構造					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	7	軸組(1) 軸組を構成する部材					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	8	軸組(2) 筋かい、耐力壁					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	9	小屋組(1) 屋根と小屋組					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	10	小屋組(2) 和小屋と洋小屋					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	11	床組					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	12	階段・開口部					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	13	外部仕上げ・内部仕上げ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	14	木造枠組壁構法					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	15	まとめ										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		○								80%
	小テスト	○		○								10%
	宿題・レポート	○		○								10%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。											

科目名	建築構造Ⅱ							
科目名(英)	Introduction of Building ConstructionⅡ							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	黒木 文雄	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築建築設計事務所にて構造設計を担当、専門学校にて常勤講師として勤務	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年							
授業概要	RC構造に関する一般構造と構造設計を学ぶ							
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				RC構造の特徴について説明することが出来る。		
	○	○				RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)の特徴について説明することが出来る。		
	○	○				断面算定をすることが出来る。		
	○	○				鉄骨構造の概要について説明することが出来る。		
	○	○				トラス構造について説明することが出来る。		
テキスト・教材 参考図書	建築構造(実教出版)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	構造の特徴と構造形式						
	2	鉄筋の形状・寸法・品質・表示について					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	コンクリート(1) コンクリートのあらまし					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	コンクリート(2) コンクリートの調合について					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	コンクリート(3) いろいろなコンクリートの紹介・特性の解説					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	基礎(1) 基礎の構成と分類					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	基礎(2) 基礎の形式と設計上の注意点について					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	主体構造のあらまし 主体構造の構成(柱と梁、床スラブ)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	配筋(1) 配筋の基本について					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	配筋(2) 床・壁・基礎、鉄筋の折り曲げと継ぎ手					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	仕上げ 仕上げ材の選択(外部仕上げ・内部仕上げ)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	開口部、階段 路面の仕上げ、手すり					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	壁式構造、壁式鉄筋コンクリート構造、壁式プレキャスト鉄筋コンクリート構造					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	プレストレストコンクリート構造 概要と導入方法					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	まとめ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	○				80%	
	小テスト	○	○				10%	
	宿題・レポート	○	○				10%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、単位を与えない							

科目名	建築環境工学						
科目名(英)	Architectural Environmental Engineering						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	竹田 真志	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立て、二級建築士試験における学科Ⅰ(計画)の問題に対応出来るようになる						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関連する各図を読み解くことができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の特徴と留意事項について説明できる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関して計算式を用いて必要な数値を算出することができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の課題点と対策について述べることができる	
テキスト・教材 参考図書	建築環境工学(市ヶ谷出版)、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築環境工学の役割					
	2	太陽位置と日照・日影の関係				教科書予習する	
	3	日影曲線・日影時間				教科書予習する	
	4	日射量・日射調節				教科書予習する	
	5	光環境・測光量・照度計算				教科書予習する	
	6	明視条件・採光				教科書予習する	
	7	採光による照度計算・採光計画				教科書予習する	
	8	人工照明・照度計算(光束法)				教科書予習する	
	9	色彩の表し方・表色法				教科書予習する	
	10	色彩の効果・色彩計画				教科書予習する	
	11	室内空気汚染物質と許容濃度				教科書予習する	
	12	各汚染物質に伴う必要換気量の計算				教科書予習する	
	13	自然換気の種類と風力換気の計算				教科書予習する	
	14	自然換気・温度差換気の計算・通風				教科書予習する	
	15	機械換気方式・換気計画				期末試験のため今までの振り返りをする。	
評価方法	定期試験結果と授業内での理解度確認テストの結果による。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	建築設備						
科目名(英)	Building Facilities						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	田川 裕也
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築施工現場事務所にて 施工図作成業務に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として 必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。						
授業形式	講義: ○		演習:		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				建築設備の役割・種類・構成を説明できる	
	○	○				空気調和方式の種類・特徴を説明できる	
	○	○				空気線図を読み解き、空調負荷について説明することができる	
	○	○				換気設備の目的、必要換気量、回数、方法について説明できる	
	○	○				建築計画における省エネ手法を導き出せる	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座「建築設備」市ヶ谷出版社 オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	概論・建築設備とは(建築設備の役割・種類と構成)					当日授業に関する復習をすること。
	2	概論・建築設備とは (種類と構成・建築計画との関わり)					当日授業に関する復習をすること。
	3	概論・建築設備とは (環境問題と建築設備・省エネルギー・維持管理・更新)					当日授業に関する復習をすること。
	4	空気調和設備とは(空気調和設備の目的としくみ) 空気調和と室内環境(室内環境基準)					当日授業に関する復習をすること。
	5	空気調和と室内環境(温熱感覚と評価指標・温冷感指標)					当日授業に関する復習をすること。
	6	空気の状態を知る(空気線図で用いられる用語・空気線図の使い方)					当日授業に関する復習をすること。
	7	空気の状態を知る(空調への応用・冷暖房時の空気線図上の動き)					当日授業に関する復習をすること。
	8	空調負荷の考え方(空調負荷の概要と条件・冷房負荷・暖房負荷)					当日授業に関する復習をすること。
	9	空調負荷の考え方(冷房負荷・暖房負荷・熱負荷の概算値)					当日授業に関する復習をすること。
	10	空気調和方式の種類・特徴と設備計画(空気調和方式の種類)					当日授業に関する復習をすること。
	11	空気調和方式の種類・特徴と設備計画 (熱源方式の種類・空調設備計画)					当日授業に関する復習をすること。
	12	熱源・熱搬送設備と機器部材 (熱源装置・熱搬送設備、室内ユニット・吹出し口、吸込み口など・空調機)					当日授業に関する復習をすること。
	13	換気設備(換気設備の目的・必要換気量と換気回数)					当日授業に関する復習をすること。
	14	換気設備(必要換気量と換気回数・換気方法)					当日授業に関する復習をすること。
	15	排煙設備(排煙設備のしくみ)					当日授業に関する復習をすること。
評価方法	期末試験、レポート課題、小テストの結果によって評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験・レポート	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	建築材料学							
科目名(英)	Building material							
単位数	2単位		時間数	32時間		担当者	田川 裕也	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築施工現場事務所にて 施工図作成業務に従事	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年							
授業概要	建築材料のうち、構造材料である木材料、コンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ							
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標		
	○	○				木材の物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。		
	○	○				コンクリートの物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。		
	○	○				鋼材の物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	建築材料とは				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	2	木材の使われ方(1)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	3	木材の使われ方(2)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	4	建築用木材の性質(1)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	5	建築用木材の性質(2)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	6	木質材料				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	7	木質材料(2)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	8	コンクリートの基本的性質(1)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	9	コンクリートの基本的性質(2)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	10	コンクリートの構成材料の性質(1)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	11	コンクリートの構成材料の性質(2)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	12	コンクリートの調合設計、コンクリートの欠陥と耐久性				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	13	鉄類(1)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	14	鉄類(2)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	15	鉄類(3)				復習(授業内容の確認等)を行う。		
	16	アルミニウム、その他の金属				復習(授業内容の確認等)を行う。		
評価方法	定期試験、レポート課題、小テストの結果によって評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験・レポート	○	○				80%	
	小テスト	○	○				20%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。							

科目名	造形演習						
科目名(英)	Architectural modeling						
単位数	2単位		時間数	32時間	担当者	元木 昭平	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験	デザイン設計事務所にて、商品の企画・デザインに従事	
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	建築模型製作の基礎を学ぶ。 【手で作る 模型演習】 模型づくりを通して建築をつくり出すことの楽しさを実感させるとともに、重要な前提知識と基礎技術の中から、これだけは確実に覚えてほしいことに絞り込んでトレーニングを行う。						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
		○	○			基本的な住宅模型(切妻屋根の住宅)を完成させることができる	
		○	○			建築図面に忠実な住宅模型を制作することができる	
			○			スケジュール通りに制作を進め、完成させることができる	
		○				制作した住宅模型についてプレゼンテーションすることができる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	道具と材料、スチレンボードの加工、立方体をつくる				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	2	家のかたちをつくる				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	3	立体曲面をつくる				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	4	立体曲面をつくる				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	5	切妻屋根の住宅模型				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	6	建築図面の読み方				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	7	L字形平面の住宅模型①				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	8	L字形平面の住宅模型② プレゼンテーション				作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	9	コートのある住宅模型①				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	10	コートのある住宅模型② プレゼンテーション				作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	11	丸屋根のある住宅模型①				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	12	丸屋根のある住宅模型②				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	13	丸屋根のある住宅模型③ プレゼンテーション				作品制作が遅れた場合、宿題とする。	
	14	テラスとピロティのある住宅模型①				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	15	テラスとピロティのある住宅模型②				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
	16	テラスとピロティのある住宅模型③ プレゼンテーション				授業で習ったスキルは、確実に習得すること。	
評価方法	授業の中で課題提出を実施する。未提出作品がある場合はD評価とする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品評価		○	○			50%
	作品提出		○				50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築史						
科目名(英)	Architectural history						
単位数	2単位		時間数	32時間		担当者	内藤 芳典
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築会社にて 建築設計(意匠)に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	建築の歴史をふりかえり、また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○	○				建築史上の代表的な建築の特徴を説明できる	
	○	○				世界の代表的な建築家と代表作品の特徴を説明できる	
	○	○				それぞれの時代背景と建築の特徴について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	コンパクト版 建築史(日本・西洋)(彰国社)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	日本建築史(1) ・古代の建築					
	2	日本建築史(1) ・古代の建築					教科書の関連するページを読む。
	3	日本建築史(2) ・中世の建築					教科書の関連するページを読む。
	4	日本建築史(2) ・中世の建築					教科書の関連するページを読む。
	5	日本建築史(3) ・近世の建築					教科書の関連するページを読む。
	6	日本建築史(3) ・近世の建築					教科書の関連するページを読む。
	7	DVD建築作品鑑賞 ・建築の造形と創造					教科書の関連するページを読む。
	8	DVD建築作品鑑賞 ・建築の造形と創造					教科書の関連するページを読む。
	9	西洋建築史(2) ・中世の建築					教科書の関連するページを読む。
	10	西洋建築史(2) ・中世の建築					教科書の関連するページを読む。
	11	西洋建築史(2) ・中世の建築					教科書の関連するページを読む。
	12	西洋建築史(2) ・中世の建築					教科書の関連するページを読む。
	13	西洋建築史(3) ・近世の建築					教科書の関連するページを読む。
	14	西洋建築史(3) ・近世の建築					教科書の関連するページを読む。
	15	西洋建築史(4) ・近世の建築					教科書の関連するページを読む。
	16	西洋建築史(4) ・近世の建築					教科書の関連するページを読む。
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	宿題・レポート	○	○				50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	建築設計論						
科目名(英)	Architectural Design Theory						
単位数	2単位		時間数	32時間		担当者	有馬 裕之
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	建築設計における歴史性やグローバル化や情報化のカテゴリーを横断的に学ぶ事で、大きく社会が変革する中での設計の意味を深く学習し、設計内容に反映する効果的な視点やアイデアを養う意識を育てる						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				物体性・効用性、・芸術性・超越性の観点から建築の哲学的成立要素について説明できる	
	○	○				建築と都市・街への関係性を説明できる	
	○	○				地方あるいは地域における建築のあり方について、具体例を用いて説明できる	
	○	○				インテリアと建築の関係を、椅子のデザインと歴史を用いて説明できる	
	○	○				現代の建築の状況と抱えている問題を実例を用いて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル教材						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	建築の成立要素についての解説 具体例					
	2	建築の成立要素についての解説(2) 考察					講義内容の復習をすること。
	3	都市と建築との関係性について解説 具体例					
	4	都市と建築との関係性について解説(2) 考察					講義内容の復習をすること。
	5	これからの都市と建築 人口減少の日本の実情					
	6	これからの都市と建築 世界の実例紹介					講義内容の復習をすること。
	7	地域あるいは地方における建築のあり方 実例紹介					
	8	地域あるいは地方における建築のあり方 考察					講義内容の復習をすること。
	9	詩と建築の作成手法について 比較考察(1)					
	10	詩と建築の作成手法について 比較考察(2)					講義内容の復習をすること。
	11	実例による設計論 設計プロセスの個性について 実例紹介					
	12	実例による設計論 設計プロセスの個性について 考察					講義内容の復習をすること。
	13	インテリアと椅子の関係性					
	14	インテリアと椅子の関係性から、建築とデザインの関係性を考察					講義内容の復習をすること。
	15	20世紀タイプとは 現代社会における建築の状況を考察					
	16	20世紀タイプとは 現代に潜む問題事例の紹介、考察					講義内容の復習をすること。
評価方法	講義ごとにレポートの提出を義務付けています。その度毎に各人の内容を精査し、それぞれの講義内容の理解度を確認します。講義中の質問はいつでも受け付け直接指導を行い、講義内容に対する理解度を深めると共に、16回目の最終的講義後に全てのレポートを点検し、最終評価を行います。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○				100%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						